

小学校長会会長賞

堺市立 久世小学校 六年

原 実 智 瑠

つなぎ、広げる二つの輪

犯罪や非行は、毎日のようにおこっている。私たちが大人になった未来で、犯罪や非行がない社会にするために今、私に何ができるのか考えてみた。

犯罪や非行をなくすためには、おたがいのことを思いやることが大切だと思う。

例えば、困っている人を助けることや、あいさつをするなどのコミュニケーションも思いやりになると思う。だから一言、言葉をかわすだけで心は自然と明るくなる。私も、地域の人と下校中、「おかえり。」「ただいま。」と一言かわすだけですごくうれしい気持ちになる。地域の人と話すことにきんちようしてできなくても、クラスの友達と、

「おはよう。」

とあいさつをかわすだけでもきつとうれしい気持ちになるだろう。私も最初は地域の人と言葉をかわすことにきんちようしてできなかった。だから、クラスの子には自分からあいさつをするぞと決心し、となりの席の子や班の子と毎日「おはよう。」と一言かわし

ていた。私には、その一言かわすことがすごくうれしかった。毎日そのことをくり返すうちに、クラスのだれにでも、「おはよう。」と言えるようになり、ろうかですれちがった先生や、地域の人にも元気な声で「おはようございます。」と言えるようになった。たった一言、言葉をかわすだけで一日が明るく始まる。すごく簡単なことだけど、勇気がいる、すごく大切なことだと思う。

もう一つ大切な思いやりがある。それは、困っている人を助けることだ。知っている人や友達なら声をかけられるけれど、知らない人ならきんちようして声をかけられなくなってしまう。私も、困っている人がいると、きんちようして助けられないことが何度もあった。体が動く前に、頭の中で助けにいったほうがいいけど、本当は困ってないかもしれない。私の助けがじゃまだと思われるかもしれない。と余計なことばかり考えて、結局声をかけることができなかった。そのことを後になって、あの時声をかけて助けにいったら良かったな、とかうかいすることのくり返しだった。次は勇気を出して声をかけてみよう。そう思っていると、ある日、

学校で低学年の子が手に何かをもって私の学年の五年生の階でキョロキョロと周りを見ていた。困っているな、助けよう。私は頭より先に体が動いた。

「だいじょうぶ。手に持っているもの、だれかに届けたいの。」

と、聞くと、三年生のクラスに行きたいことを教えてくれた。三年生のクラスは別の校舎にあったから、私は三年生のクラスまで案内した。二人で自分の校舎にもどっている時、その子がすこしでれながら、

「お姉さん、ありがとう。」

と言ってくれた。私はすごくうれしくなった。声をかけて、良かった。これからも、困っている人がいたら、助けようと思えた。

相手のことを思いやると、相手も自分もうれしい気持ちになる。

二人で「おはよう。」と言葉をかわすと、相手も他の人に「おはよう。」と言い、その人もまた他の人に言う。自分が困っている人に声をかけて助けてあげたら、助けてもらった人も、自分もいい気持ちになる。いい気持ちになると助けてもらった人は他の人を、助ける。そんな二つの輪をつなぎ、広げていくと、大きな輪になる。私たちの一つの言葉、一つの行動で、二つの大きな輪をみんなでつくる。私は、これからも思いやりの二つの輪を大切にっなぎ、広げていく。その輪で思いやりがあふれる明るい社会の未来をつくっていくために。

